

人命獲得に懸命

就活 会社説明会解禁

2020年春に卒業予定の大学3年生らに向けた会社説明会が1日解禁となり、県内でも就職活動が本格的にスタートした。人手不足を背景に企業の採用意欲は高いものの、学生優位の「売り手市場」であることから、各社はインターンシップ(就業体験)などさまざまな工夫を凝らし人材獲得に知恵を絞っている。

県内企業

就職情報会社「マイナビ」の調査では、地元以外に進学した今春卒業予定の大学生でUターン就職を望む人の割合は、7年前より15%以上低い33.8%。大都市圏の企業に挑む学生が多い上、大企業が地方大学に求人を出すため

「売り手市場」で知恵

地方企業にとって採用は厳しいとされている。1日に富山市総合体育館などで開かれた合同会社説明会「とやま就職フェスタ」では、宮本工業所(富山市)は、自社ブースの前に「VR(仮想現実)工場見学」と記した看板を設置。工場の様子若手社員とのメッセージ映像を見ることができると紹介して自社の魅力をPRした。

■就業体験
各社ともインターンシップ

に力を注ぐ。三協立山は今年から建材、マテリアル、商業施設の事業ごとに実施。担当者は「配属後に『希望職種でなかった』と思われるためにも、入社前から各事業の内容をきめ細かく伝え、興味を持ってほしい」と話した。

大高建設(富山市)と日本海建設(富山市)、安達建設(南砺市)の建設業3社は、2月から合同でのインターンシップを開始。業界に興味を持つ学生に多くの企業を知ってもらうとともに、自宅に近い勤務地を運んでもらえるよう、3社間で協力するとい



合同会社説明会に参加する学生(富山市総合体育館)

県内企業は新卒採用だけでなく、中途採用も重視。中には計画的に人員を募る動きがある。各社とも即戦力を期待している。

北陸電力はこれまで10、20人中途採用してきたが、今回初めて2019年度に30人を採用するなどの計画を定めた。大蔵の定年退職や分社化などを見据え人員確保を図る。

年平均で90人中途採用しているYKKは、強化していく特定分野については計画的に採用し、そのほかは適宜募っている。

大阪屋ショップは事業拡大に伴い業界未経験の30、40代を含め年約40人を採用。少子化の影響で新卒採用市場は縮

中途採用も重視 即戦力期待

小しており、担当者は「店舗数はこの10年で2倍となり、新卒者だけでは必要な人数を確保できない」と話した。

日医工は、医薬品製造や品質管理、製剤開発などに関する専門知識、経験が求められる職場で通年で中途者を採用している。

県経営者協会の企業調査によると、県内の中途採用実績は11年は約1700人だったが、17年度は約3900人に増えている。

リクルートワークス研究所(東京)の全国調査によると、19年度も中途採用が増加する見通し。飲食・宿泊業や情報通信業、小売業、運輸業などの業種で増やす傾向があると

■トップ自ら

ほとんどの企業が総務や人事担当者が学生に説明する中で、社長自らアピールする企業もあった。エムティヤ(富山市)の森弘吉社長は「ともかく人を運ぶのだから、ダイレクトに熱意を伝えたい」と強調。キョアコード(富山市)の土田史高社長は「気概のある人を自分の目で見極めたい」と語った。

■福利厚生PR

「今年ゴールデンウィークは10連休が取れます」と呼び掛けたのはトナミ運輸(高岡市)。運送業に対する長時間労働の負のイメージを拭き去るため、学生の福利厚生への関心の高さを意識し休日が取得しやすいことをPRした。ネットヨタ富山(富山市)も各種休暇制度や1人残業デーなどを紹介した。

北陸銀行は今回のフェアのほか、今月は女性限定の説明会を富山、東京、大阪で開く。人事企画グループの矢部仁美主任は「銀行は男性中心の職場と思われがちだが、女性が活躍できる環境を整っていることを伝えたい」と話した。

「早く内定ほしい」

フェア参加の学生

経団連が定める就活日程ルールでは、面接などの選考は3カ月後の6月1日から、正式な内定解禁は10月1日だ。ただ、昨年には21年卒からの日程ルール廃止を決定。優秀な人材確保のため内定を3月や4月に出す企業もあり、早期化に歯止めは掛かっておらず早くも中盤戦の見方も出ている。

「とやま就職フェスタ」に参加した龍谷大3年の女子学生(1)「魚津市出身。昨年度から県内企業でインターンシップに参加しており、日程ルールはあまり関係ないのかもしれない。早期化を感じていて、できるだけ早く内定を取りたい」と話した。

フェアを企画した県の担当者は「実際の就職活動は中盤戦に入っているとも聞く。学生は『売り手市場』だからこそ、選択の幅を広くしてさまざまな企業を見てほしい」と呼び掛けている。